

ローターアクト意識調査 報告書 II

地区RA委員会委員長 宜野座嗣剛

活動現況→現在のローターアクト・クラブ活動の状況はどうか。

	とても活発で満足している	マンネリ化している	年々、沈滞化の傾向にある (%)
中央分区	11.8	64.7	23.5
北分区	60.0	32.0	8.0
東分区	52.4	47.6	0
多摩・武蔵野分区	61.1	27.8	11.1
沖縄分区	29.0	38.7	32.3
平均	33.0	42.0	25.0

活動がとても活発であると答えたのは、多摩・武蔵野、北分区で60%台を示している。特にマンネリ化の傾向があるのは、中央分区と東分区で、どちらも半数を越えている。

また、活動状況は、各クラブによっても異なるであろうが、全体で活発であると答えたのは3分の1にしかすぎない。全体の70%のクラブがマンネリに陥っている。クラブ運営・活動内容・リーダーの資質に問題はないかどうか、又、クラブ創始の心を今一度考えて見る必要があるように思われる。活動は外的強制でなく、内発する精神の発露が望ましい。

存在価値→ローターアクト・クラブの存在価値についてはどのように考えていますか。

	地域社会に、是非必要とされている	一部の人には認められている	地域社会に、あまり必要とされていない (%)
中央分区	5.9	64.7	29.4
北分区	4.0	56.0	40.0
東分区	4.0	76.2	23.8
多摩・武蔵野分区	10.5	73.7	15.8
沖縄分区	22.6	64.5	12.9
平均	9.7	66.4	23.9

地域社会に是非必要とされている、と存在価値を大きく認めた会員は、全体の9.7%と少ない。一方、あまり必要とされていないと答えた会員は全体の23.9%を示している。

地区別にも差異がみられ、北分区と東分区は存在価値を否定する傾向にあるが、沖縄分区は肯定的な傾向が強い。

「地域社会のニーズに合った活動を考えるべき」とか「もっと地域社会に我々の活動をPRする」といった多くの指摘がなされていることはせめてもの救いである。思いあがりはいくはないが、自ら参加する集団に対して「存在」「価値」を否定する意識は問題である。今後は、意識の啓発、自己実現、自他共存の精神生活が望まれる。

ロータリー・クラブとの関係→ロータリー・クラブとの関係はどうか。

	とてもうまくいっている	わりとうまくいっている	あまりうまくいっていない (%)
中央分区	52.9	41.2	5.9
北分区	32.0	68.0	0
東分区	9.5	81.0	9.5
多摩・武蔵野分区	10.5	73.7	15.8
沖縄分区	10.0	63.3	26.7
平均	21.4	66.1	12.5

全体的に「わりとうまくいっている」と答えた会員が多く、66.1%、次いで「とてもうまくいっている」21.4%、「あまりうまくいっていない」は12.5%と高い数字を示している。

分區別にみるとかなり差異があり、中央と北分区は、良好なつながりが見られる。沖縄と多摩・武蔵野分区は他分区に比べてあまりうまくいっていない。この数字に対しロータリー・クラブは言を左右せず、謙虚に反省するとともに、育成策としてまず信頼関係の回復、有機的な連携を緊密にする必要がある。

成功事例→ローターアクト・クラブに加入して、成功事例がありましたら書いて下さい。

意見の多い順に列挙してみると、

1. 自己向上
2. 友人が増えた。
3. 様々な分野の人と知り合うことができた。
4. 社会奉仕の理解と実践。
5. その他
 - ・国際理解と国際交流
 - ・ロータリアンの方々の話をきけた。
 - ・いろいろな体験が出来た。
 - ・クラブ運営についての知識を得た。
 - ・自分自身に自信がついた。

中でも一番多い自己向上の内容は、責任感、行動力、発表力、協調性、知識や視野の拡大、自主性、人間関係の円満、リーダーシップの体得、奉仕精神の芽ばえなどたくさん見解が寄せられた。ローターアクト・クラブ会員は、その活動を通して様々な自己形成と向上の機会を得ており、非常に喜ばしいことである。

少数の意見ではあるが、①人間性豊かになった。②内向的性格が明るくなった。③自己中心的な考え方が少なくなった、など全般的に高い自己評価をしている。

クラブ活動を通しての友人の輪の広がりも、すばらしいものであり、友人は人生にとって宝である。特に、奉仕活動や国際理解、自己向上を通しての人間関係はリクリエーションと異って得るものが大きい。

その他、少数の意見には、年次大会の成功、10周年記念行事の成功、歳末たすけ合い募金など具体的な行事もあげられている。また有名人の名刺をもらえた、クラブ会員同士の結婚など、成功事例が実に広範におよんでいる。

反省事例→ローターアクト・クラブに加入して、反省事例がありましたら書いて下さい。

意見の多い順に列挙してみると、

1. 時間の使い方がルーズになった。
2. 金使いが荒くなった。
3. 時間的に余裕がなくなった。
4. 仕事とアクト活動の切り替えがうまくいかない。

5. 帰宅時間が遅くなる。

6. その他
 - ・会員増加がうまくいかない。
 - ・行動が積極的にできなかった。
 - ・物を大事にする意識が弱くなった。
 - ・リーダーとしての計画性、行動力、責任感が弱かった。
 - ・ロータリークラブへの依存が強い。
 - ・地区、分区活動に不活発。

全体的に、時間とお金の使い方についての反省点が多い。①時間の使い方がルーズになったこと。②時間的にゆとりがなくなったこと。③帰宅時間が遅くなることなどをあげている。

また、活動に参加すると、①自分の自由時間がなくなる。②仕事の仲間とのつき合いが悪くなる。③家族とのコミュニケーションがうまくいかない、というマイナス面を指摘する会員が多い。

忙しい人は、時間のうまい使い方をしているともしられるので、時間の効果的なはじめのある使い方を工夫したいものである。

少数の意見ではあるが、①職場や年齢の違いによる会員間の人間関係がうまくいかない。②計画倒れ ③他クラブとの交流。④奉仕活動に対する認識不足。⑤後継リーダーが育たない。⑥活動にあまり積極的でない、などがあげられている。

今後の活動のあり方→今後のローターアクト・クラブ活動のあり方について、御意見、御要望がありましたら書いて下さい。

<今後の活動のあり方について>

1. ただなんとなくというのではなく、積極的に様々なものにトライしていきたい。(意識)
2. ローターアクトの存在を地域社会に認めてもらうための活動。(広報)
3. 会員増強を真剣に考えるべきである。(増強)
4. ローターアクト活動の意義・目的を再確認して何をすべきか再考するべきである。(理念)

5. 低予算(RC援助金、自己負担金)による活動を考えていくべきである。(財政)
6. 他クラブとの交流や、他地区さらに国際交流も深めていきたい。(プログラム)
7. 他地区との交流もよいが、まず自クラブ内のまとまりを考えていきたい。(リーダー)

今後の活動を考えるにあたり、もう一度その意義や目的を考えていくべきという、意見が多く見られる。また、反省点であげられた時間とお金の有効な使い方今後の課題といえる。

まず、自己向上のたゆまぬ努力、そして自クラブのまとまりとたすけ合い、それができてはじめて、他クラブ、他地区、国際交流へと輪が広がっていくものではないだろうか。

他クラブの活動状況を、交流を通して知り合うことも自クラブをまとめていく上で必要なことだと思われる。自クラブだけにかたまった活動は考慮していくべきであろう。

アクト達のロータリーに対する切実な要望

1. RCあつてのRACであるので、RC会員ももっとRACを理解してほしい。
2. ロータリアンの例会への参加を要望します。
3. ロータリアンとの接触がほしい。
4. 色々な会合にお金を使いすぎる。締める所はしめないと、ロータリーもアクトも甘えがお互いに出てくることになる。
5. 自立を目指すべき。ローターアクトの成功は、ロータリーの力に頼りすぎる。
6. ロータリーのアクトへの心ざしを大切にしたい。

7. ロータリーと一体化した社会奉仕。

8. ローターアクト・クラブ会員増強の問題で、ロータリークラブ、ローターアクト・クラブが一体となって会員増強に取り組んでほしい。

結 び

ロータリアンに対して、様々な形での接触をローターアクト会員は強く望んでいる。例会への出席、会話、合同の社会奉仕、会員増強運動と具体的な意見もあげられている。また、お金を使いすぎる点をロータリアンの援助のやりすぎと指摘した意見も多い。

ローターアクトを自立させながら、いかにロータリアンが人生の先輩としての手助けをしていくか。その程度や方法についてもロータリークラブのこれから考慮すべき点である。

少数意見であるが「ロータリアンと身近につき合える雰囲気づくりをすべきである」「ロータリアンがRAC(現在の)を理解されるように計画する」といった、相手側の理解を待つのではなく一歩進んで自ら努力する会員が見られた。これはとてもすばらしい意見である。

最後にこの意識調査は12項から成り、地区内ローターアクト417名に配布し、246名(63.3%)の回収率であった。一応アクト達の意識傾向・意識構造を理解することができると思います。『意識報告書』は各クラブに送付済みですが、ここにその一部をまとめました。今後のローターアクト・クラブの発展のいくらかのご参考になれば幸いです。